



堂々と入場行進した東高ナイン

日本の野球の原点は



甲子園 選抜大会が開幕!



速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

3月21日(土)、阪神甲子園球場で午前9時、第81回選抜高校野球大会が開幕した。出場32校の選手たちは右翼外野席と1塁側アルプスの間に作られたカラフルなしつらえのゲートをくぐり、グラウンドを行進。開会式がスタートした。

昨日のリハーサルとは打って変わって、甲子園の緑色のスタンドは超満員の観客で色鮮やかに変わった。選手たちは、行進の先頭に立つ警察音楽隊の鼓笛のリズムに合わせて腕を振り上げ、雄姿を披露した。彦根東はプラカードを持つ新山智也君(2、4)を先頭に堂々と行進。学校名がアナウンスされたとき、21世紀枠からの選出で、また出

選手宣誓の様子



場は56年ぶりということもあつたからか、拍手が一段と大きくなった。選抜旗をためかせ、歩いた主将新谷直弘君(26)は行進中も「こやか。野球部顧問の藤田延代先生も「客観的に見ても一番素晴らしい行進でした」とおっしゃり、彦根東ナインは昨日のビデオから見つけた課題をしっかりとクリアしていた。大会会長の朝比奈豊さんは「力強く行進する姿を見て、新しい春の訪れを感じている。選抜大会に選ばれたこ



たくさんの観客が詰めかけた

とへの誇りを胸に、また周りからの支援に感謝して、力を尽くして悔いのないプレーをして。日本の野球の原点は甲子園にある。皆さんが新しい未来を切り開く、元氣と希望の担い手であってほしい」と選手たちを激励した。代表で選手宣誓をした今治西高校の高市廉君は「未来の糧となるよう、若人のこの1球1打にたくし、心をこめてプレーすることを誓います」。高校球児の夢舞台がついに始まった。

今朝甲子園に駆けつけた応援団の野球部員と野球部顧問の先生方は3塁特別自由席からナインを見守っていた。中西直文君(1、2)は「選手が精一杯プレーできるように応援したい」、谷健太郎君(1、5)は「自分たちのホームゲームだと思えるような応援をしたい」。宮崎直君(1、2)は「メンバーが楽しく東高らしいプレーができるように応援したい」と意気込んだ。

開会式後は金光大阪高校と倉敷工業高校の対戦があり、対戦前の両校の練習を見た西東群君(1、3)は「肩が強いし、送球も的確ですこい」、西田大竜君(1、9)は「守備のときの打球の処理が早い」と感嘆していた。